

平成23年度
第5回市政モニターアンケート

アルコール・薬物依存症対策について

北九州市市民文化スポーツ局広聴課

目 次

調査の概要	1
市政モニターの構成	1
調査結果	2
【アルコール編】	
(1) 飲酒の習慣の有無	2
(2) “適正飲酒”という言葉の認知度	3
(3) アルコール依存症の認知度	4
(4) アルコール依存症は回復可能だと思うか	5
(5) アルコール依存症の相談窓口の認知度	6
(6) 知っているアルコール依存症の相談窓口	7
(7) アルコール依存症の治療プログラムのある病院の認知度	8
(8) アルコール依存症からの回復を目指す自助グループの認知度	9
(9) 身近にアルコール依存症の人がいた場合の対応	10
【薬物編】	
(10) 身近で薬物を使用した人を知っているか	11
(11) 薬物依存症の認知度	12
(12) 薬物依存症は回復可能な病気だと思うか	13
(13) 薬物依存症の相談窓口の認知度	14
(14) 知っている薬物依存症の相談窓口	15
(15) 薬物依存症の治療プログラムのある病院の認知度	16
(16) 薬物依存症からの回復を目指す自助グループの認知度	17
(17) 身近に薬物依存症の人がいた場合の対応	18
【共通】	
(18) 依存症回復のために充実させるべきもの	19
(19) 依存症からの回復に関する意見・提案	20
全体考察	22

I 調査の概要

調査対象者	市政モニター 150人		
回答者数	137人(回収率 91.3%)		
調査実施日	平成23年9月28日~平成23年10月12日		
実施方法	調査票による郵送及びインターネット調査		
調査実施課	市民文化スポーツ局広聴課	582-2525	
調査依頼課	保健福祉局精神保健福祉センター	522-8729	

II 市政モニターの構成

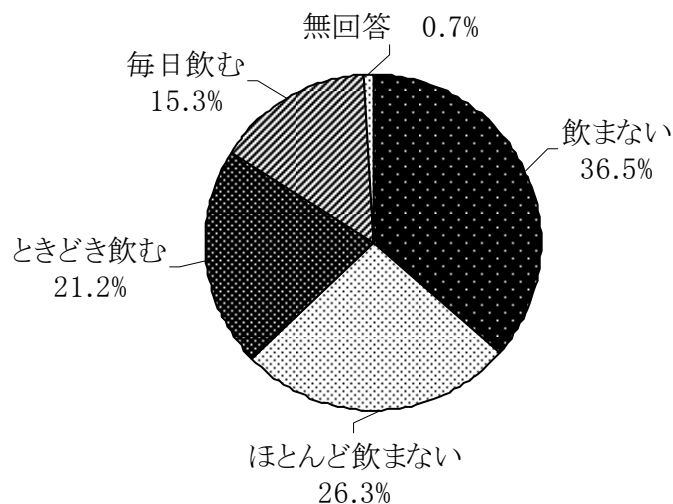
区分	合計	男性	女性	区分	合計	男性	女性
全体	150 (100.0%)	50 (33.3%)	100 (66.7%)	区別			
				門司区	23 (15.3%)	6 (4.0%)	17 (11.3%)
20歳代	21 (14.0%)	5 (3.3%)	16 (10.7%)	小倉北区	28 (18.7%)	7 (4.7%)	21 (14.0%)
30歳代	42 (28.0%)	12 (8.0%)	30 (20.0%)	小倉南区	34 (22.7%)	13 (8.7%)	21 (14.0%)
40歳代	28 (18.7%)	5 (3.3%)	23 (15.3%)	若松区	12 (8.0%)	6 (4.0%)	6 (4.0%)
50歳代	15 (10.0%)	4 (2.7%)	11 (7.3%)	八幡東区	12 (8.0%)	4 (2.7%)	8 (5.3%)
60歳代	25 (16.7%)	12 (8.0%)	13 (8.7%)	八幡西区	34 (22.7%)	11 (7.3%)	23 (15.3%)
70歳以上	19 (12.7%)	12 (8.0%)	7 (4.7%)	戸畑区	7 (4.7%)	3 (2.0%)	4 (2.7%)

数値の単位未満は四捨五入を原則としましたので、総数と内容の合計は一致しない場合があります。

Ⅲ 調査結果

【アルコール編】

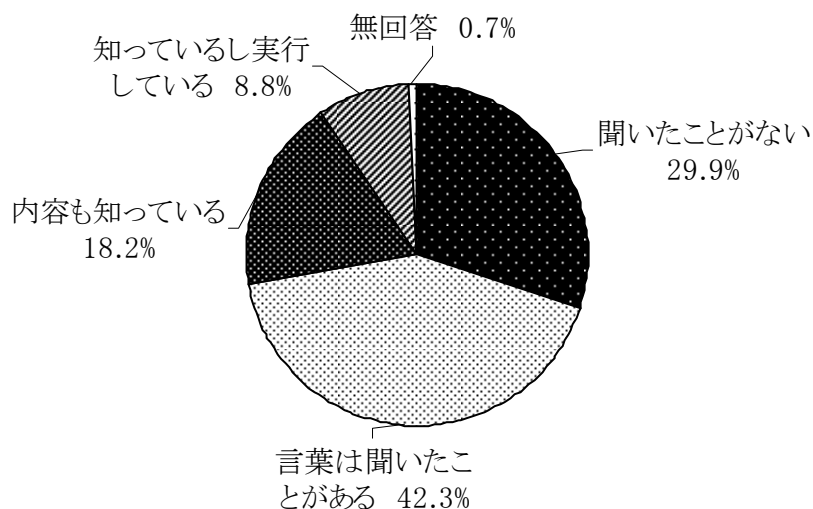
問1 あなたはアルコール（お酒やビール、焼酎など）を飲みますか。1つだけ選んで下さい。



		回答者数	飲まない	ほとんど飲まない	ときどき飲む	毎日飲む	無回答
全体		137人	36.5%	26.3%	21.2%	15.3%	0.7%
性別	男性	45人	26.7%	26.7%	17.8%	26.7%	2.2%
	女性	92人	41.3%	26.1%	22.8%	9.8%	0.0%
年齢別	20歳代	17人	23.5%	35.3%	35.3%	5.9%	0.0%
	30歳代	36人	19.4%	33.3%	30.6%	16.7%	0.0%
	40歳代	27人	51.9%	14.8%	18.5%	14.8%	0.0%
	50歳代	14人	35.7%	42.9%	7.1%	14.3%	0.0%
	60歳代	25人	44.0%	16.0%	20.0%	20.0%	0.0%
	70歳以上	18人	50.0%	22.2%	5.6%	16.7%	5.6%
区別	門司区	23人	43.5%	34.8%	13.0%	8.7%	0.0%
	小倉北区	27人	22.2%	25.9%	22.2%	29.6%	0.0%
	小倉南区	28人	46.4%	25.0%	10.7%	17.9%	0.0%
	若松区	10人	70.0%	0.0%	30.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	12人	8.3%	50.0%	16.7%	25.0%	0.0%
	八幡西区	31人	29.0%	25.8%	35.5%	6.5%	3.2%
	戸畑区	6人	66.7%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%

「毎日飲む」が15.3%で「飲まない」が36.5%になっている。「毎日飲む」と「ときどき飲む」をあわせると飲酒習慣のある方は、3割を超える。

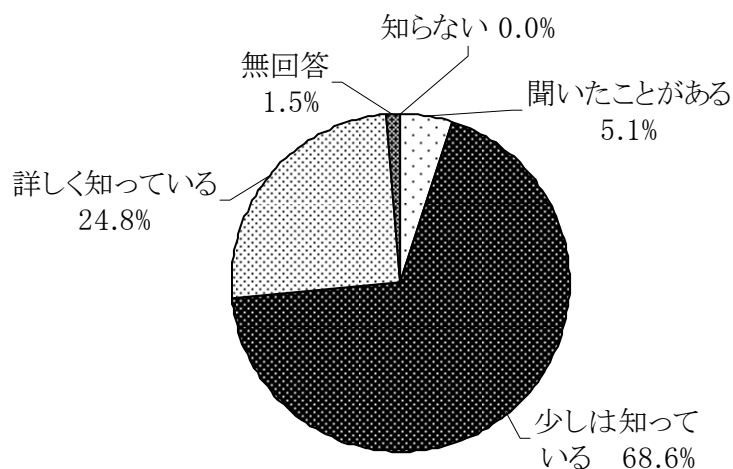
問2 適正飲酒という言葉を知っていますか。1つだけ選んで下さい。



		回答者数	聞いたことがない	言葉は聞いたことがある	内容も知っている	知っているし実行している	無回答
全体		137人	29.9%	42.3%	18.2%	8.8%	0.7%
性別	男性	45人	20.0%	42.2%	22.2%	13.3%	2.2%
	女性	92人	34.8%	42.4%	16.3%	6.5%	0.0%
年齢別	20歳代	17人	35.3%	41.2%	11.8%	11.8%	0.0%
	30歳代	36人	36.1%	61.1%	0.0%	2.8%	0.0%
	40歳代	27人	40.7%	25.9%	22.2%	11.1%	0.0%
	50歳代	14人	21.4%	71.4%	7.1%	0.0%	0.0%
	60歳代	25人	20.0%	40.0%	28.0%	12.0%	0.0%
	70歳以上	18人	16.7%	11.1%	50.0%	16.7%	5.6%
区別	門司区	23人	26.1%	47.8%	21.7%	4.3%	0.0%
	小倉北区	27人	29.6%	40.7%	7.4%	22.2%	0.0%
	小倉南区	28人	21.4%	50.0%	17.9%	10.7%	0.0%
	若松区	10人	40.0%	30.0%	30.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	12人	58.3%	25.0%	8.3%	8.3%	0.0%
	八幡西区	31人	29.0%	41.9%	22.6%	3.2%	3.2%
	戸畑区	6人	16.7%	50.0%	33.3%	0.0%	0.0%

「聞いたことがない」29.9%、「言葉は聞いたことがある」が42.3%であるが、「知っているし実行している」は8.8%と少ない。生活習慣に関連して健康を守るための重要な考え方であるため、より普及啓発が望まれる。特に20～40代の若年層の認知度をあげることが重要と思われる。

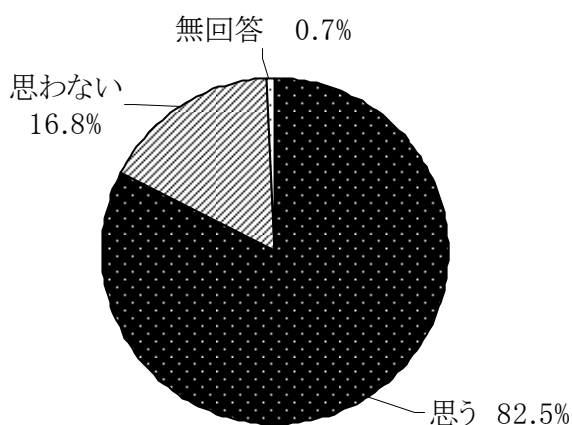
問3 アルコール依存症という病気を知っていますか。1つだけ選んで下さい。



		回答者数	知らない	聞いたことがある	少しは知っている	詳しく知っている	無回答
全体		137人	0.0%	5.1%	68.6%	24.8%	1.5%
性別	男性	45人	0.0%	2.2%	71.1%	24.4%	2.2%
	女性	92人	0.0%	6.5%	67.4%	25.0%	1.1%
年齢別	20歳代	17人	0.0%	5.9%	70.6%	23.5%	0.0%
	30歳代	36人	0.0%	11.1%	72.2%	13.9%	2.8%
	40歳代	27人	0.0%	3.7%	81.5%	14.8%	0.0%
	50歳代	14人	0.0%	0.0%	71.4%	28.6%	0.0%
	60歳代	25人	0.0%	0.0%	64.0%	36.0%	0.0%
	70歳以上	18人	0.0%	5.6%	44.4%	44.4%	5.6%
区別	門司区	23人	0.0%	0.0%	65.2%	34.8%	0.0%
	小倉北区	27人	0.0%	7.4%	66.7%	25.9%	0.0%
	小倉南区	28人	0.0%	7.1%	60.7%	32.1%	0.0%
	若松区	10人	0.0%	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%
	八幡東区	12人	0.0%	0.0%	75.0%	16.7%	8.3%
	八幡西区	31人	0.0%	9.7%	77.4%	9.7%	3.2%
	戸畑区	6人	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%

「少しは知っている」と「詳しく知っている」を合わせると、93.4%になる。ほとんどの市民が、ある程度はアルコール依存症のことを知っていることになり、多くの市民がアルコール問題の存在は認知しているものと考えられる。

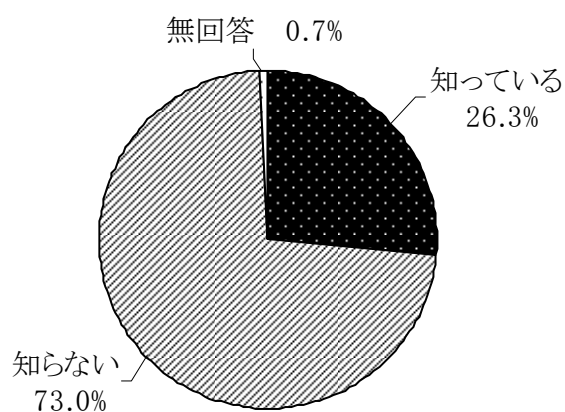
問4 アルコール依存症は、回復可能な病気だと思いますか。



		回答者数	思う	思わない	無回答
全 体		137人	82.5%	16.8%	0.7%
性別	男 性	45人	82.2%	15.6%	2.2%
	女 性	92人	82.6%	17.4%	0.0%
年齢別	20歳代	17人	76.5%	23.5%	0.0%
	30歳代	36人	72.2%	25.0%	2.8%
	40歳代	27人	77.8%	22.2%	0.0%
	50歳代	14人	92.9%	7.1%	0.0%
	60歳代	25人	96.0%	4.0%	0.0%
	70歳以上	18人	88.9%	11.1%	0.0%
区別	門司区	23人	65.2%	34.8%	0.0%
	小倉北区	27人	85.2%	14.8%	0.0%
	小倉南区	28人	78.6%	17.9%	3.6%
	若松区	10人	80.0%	20.0%	0.0%
	八幡東区	12人	91.7%	8.3%	0.0%
	八幡西区	31人	90.3%	9.7%	0.0%
	戸畑区	6人	100.0%	0.0%	0.0%

「回復可能な病気と思う」が82.5%もあり、アルコール依存症という疾患に対する理解度は高いが、20～40代の層の「思わない」は2割を超えており、世代により認識の差がある。

問5 アルコール依存症の相談窓口を知っていますか。

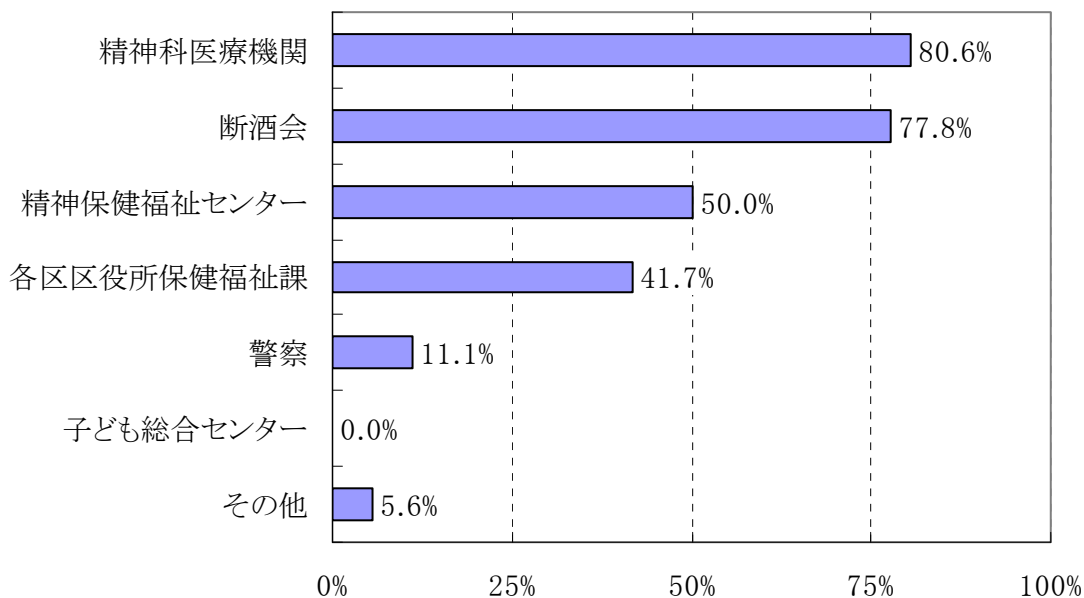


		回答者数	知っている	知らない	無回答
全体		137人	26.3%	73.0%	0.7%
性別	男性	45人	24.4%	75.6%	0.0%
	女性	92人	27.2%	71.7%	1.1%
年齢別	20歳代	17人	5.9%	94.1%	0.0%
	30歳代	36人	11.1%	88.9%	0.0%
	40歳代	27人	18.5%	81.5%	0.0%
	50歳代	14人	42.9%	57.1%	0.0%
	60歳代	25人	52.0%	44.0%	4.0%
	70歳以上	18人	38.9%	61.1%	0.0%
区別	門司区	23人	43.5%	56.5%	0.0%
	小倉北区	27人	22.2%	74.1%	3.7%
	小倉南区	28人	35.7%	64.3%	0.0%
	若松区	10人	40.0%	60.0%	0.0%
	八幡東区	12人	25.0%	75.0%	0.0%
	八幡西区	31人	3.2%	96.8%	0.0%
	戸畑区	6人	33.3%	66.7%	0.0%

問3に示されたようにアルコール依存症に関する認知度は高いが、相談先については「知っている」が26.3%と認知度は低い。特に、20～40代の若年層の認知度の低さは際立っており、若者を中心に相談窓口の周知が必要と考えられる。

<問5で「1 知っている」と回答した方にお尋ねします。>

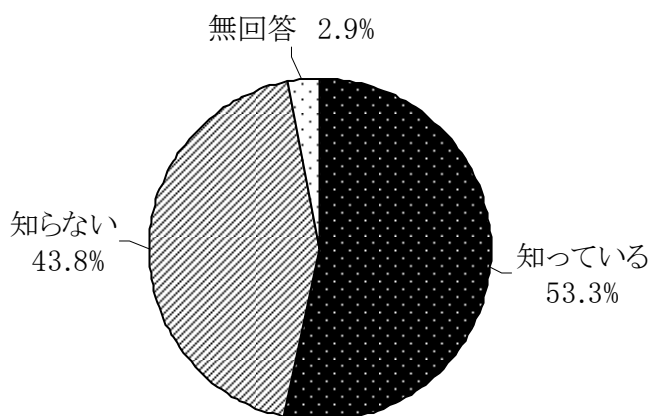
副問5 - 1 知っているものにすべて をつけてください。(複数回答可)



		回答者数	精神科医療機関	断酒会	精神保健福祉センター	各区区役所保健福祉課	警察	子ども総合センター	その他
全体		36人	80.6%	77.8%	50.0%	41.7%	11.1%	0.0%	5.6%
性別	男性	11人	81.8%	81.8%	45.5%	45.5%	9.1%	0.0%	9.1%
	女性	25人	80.0%	76.0%	52.0%	40.0%	12.0%	0.0%	4.0%
年齢別	20歳代	1人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	4人	50.0%	75.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	5人	80.0%	80.0%	60.0%	60.0%	20.0%	0.0%	20.0%
	50歳代	6人	83.3%	66.7%	16.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	13人	84.6%	76.9%	46.2%	38.5%	15.4%	0.0%	0.0%
	70歳以上	7人	85.7%	100.0%	85.7%	42.9%	0.0%	0.0%	14.3%
区別	門司区	10人	70.0%	60.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	6人	83.3%	83.3%	66.7%	50.0%	16.7%	0.0%	16.7%
	小倉南区	10人	70.0%	80.0%	30.0%	30.0%	20.0%	0.0%	10.0%
	若松区	4人	100.0%	75.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	3人	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	1人	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	戸畑区	2人	100.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

精神科医療機関や断酒会といった民間資源、精神保健福祉センターや区役所といった公的社会的資源についても市民の認知度は比較的高い。その一方、子ども総合センターの認知度が0%となっている。アルコール問題が子どもの養育にも影響することが理解されていないことが、このような現れ方につながっている可能性がある。

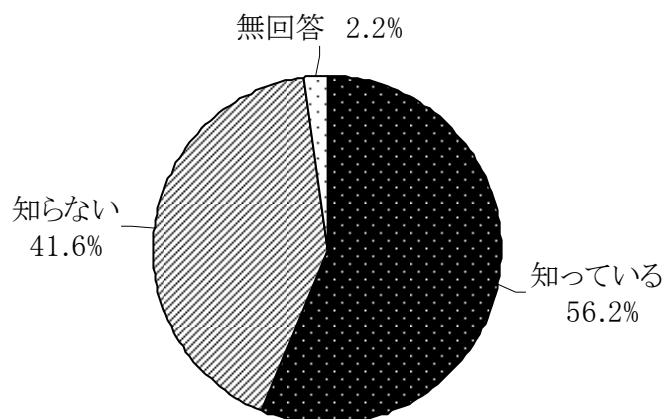
問6 アルコール依存症の治療のためのプログラムのある病院を知っていますか。



		回答者数	知っている	知らない	無回答
全体		137人	53.3%	43.8%	2.9%
性別	男性	45人	51.1%	44.4%	4.4%
	女性	92人	54.3%	43.5%	2.2%
年齢別	20歳代	17人	47.1%	52.9%	0.0%
	30歳代	36人	52.8%	41.7%	5.6%
	40歳代	27人	48.1%	51.9%	0.0%
	50歳代	14人	78.6%	21.4%	0.0%
	60歳代	25人	52.0%	44.0%	4.0%
	70歳以上	18人	50.0%	44.4%	5.6%
区別	門司区	23人	60.9%	39.1%	0.0%
	小倉北区	27人	55.6%	37.0%	7.4%
	小倉南区	28人	35.7%	64.3%	0.0%
	若松区	10人	40.0%	50.0%	10.0%
	八幡東区	12人	83.3%	16.7%	0.0%
	八幡西区	31人	45.2%	51.6%	3.2%
	戸畑区	6人	100.0%	0.0%	0.0%

過半数の市民が、治療プログラムのある病院を認知しているが、20代など「知らない」比率が高い層もある。疾患理解や相談窓口の普及と合わせて、周知に努める必要がある。

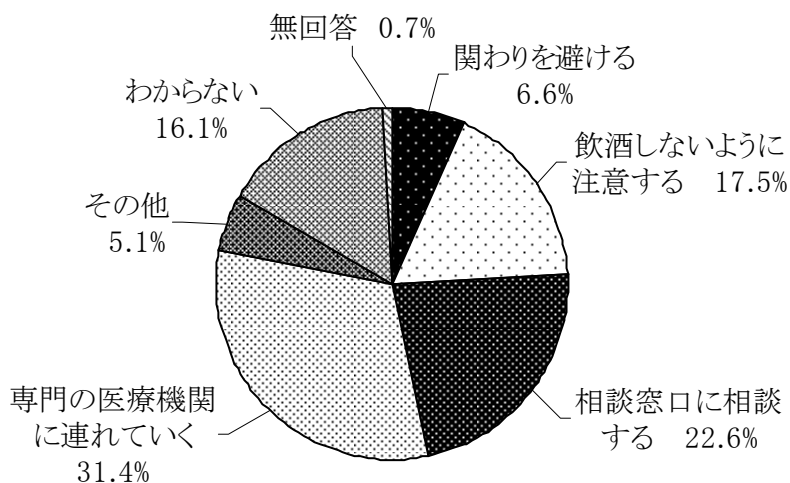
問7 アルコール依存症からの回復を目指す自助グループ（断酒会、AAなど）を知っていますか。



		回答者数	知っている	知らない	無回答
全体		137人	56.2%	41.6%	2.2%
性別	男性	45人	60.0%	37.8%	2.2%
	女性	92人	54.3%	43.5%	2.2%
年齢別	20歳代	17人	17.6%	82.4%	0.0%
	30歳代	36人	50.0%	47.2%	2.8%
	40歳代	27人	48.1%	48.1%	3.7%
	50歳代	14人	71.4%	28.6%	0.0%
	60歳代	25人	80.0%	20.0%	0.0%
	70歳以上	18人	72.2%	22.2%	5.6%
区別	門司区	23人	47.8%	52.2%	0.0%
	小倉北区	27人	48.1%	48.1%	3.7%
	小倉南区	28人	64.3%	35.7%	0.0%
	若松区	10人	40.0%	60.0%	0.0%
	八幡東区	12人	66.7%	16.7%	16.7%
	八幡西区	31人	61.3%	38.7%	0.0%
	戸畑区	6人	66.7%	33.3%	0.0%

自助グループについても、過半数の市民が存在を認知している。ただ、この設問においても特に20代の「知らない」の多さが、際立っている。依存症に対する早期介入という点からは心配な数字である。

問8 もしあなたの身近な人にアルコール依存症の人がいたらどういふ対応をしますか。
1つだけ選んで下さい。

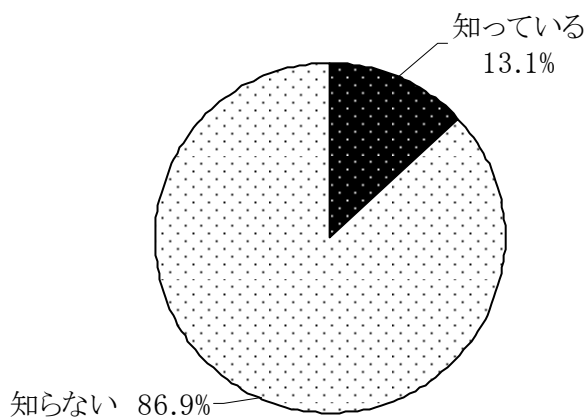


		回答者数	関わりを避ける	飲酒しないように注意する	相談窓口で相談する	専門の医療機関に連れていく	その他	わからない	無回答
全体		137人	6.6%	17.5%	22.6%	31.4%	5.1%	16.1%	0.7%
性別	男性	45人	6.7%	22.2%	24.4%	20.0%	2.2%	22.2%	2.2%
	女性	92人	6.5%	15.2%	21.7%	37.0%	6.5%	13.0%	0.0%
年齢別	20歳代	17人	5.9%	29.4%	11.8%	29.4%	0.0%	23.5%	0.0%
	30歳代	36人	8.3%	8.3%	33.3%	33.3%	0.0%	16.7%	0.0%
	40歳代	27人	7.4%	29.6%	11.1%	33.3%	11.1%	7.4%	0.0%
	50歳代	14人	14.3%	7.1%	21.4%	35.7%	7.1%	14.3%	0.0%
	60歳代	25人	4.0%	16.0%	24.0%	32.0%	8.0%	12.0%	4.0%
	70歳以上	18人	0.0%	16.7%	27.8%	22.2%	5.6%	27.8%	0.0%
区別	門司区	23人	13.0%	4.3%	13.0%	47.8%	8.7%	13.0%	0.0%
	小倉北区	27人	3.7%	18.5%	25.9%	18.5%	7.4%	25.9%	0.0%
	小倉南区	28人	14.3%	14.3%	35.7%	21.4%	3.6%	10.7%	0.0%
	若松区	10人	0.0%	50.0%	10.0%	20.0%	10.0%	10.0%	0.0%
	八幡東区	12人	0.0%	25.0%	25.0%	41.7%	0.0%	8.3%	0.0%
	八幡西区	31人	3.2%	12.9%	19.4%	41.9%	0.0%	19.4%	3.2%
	戸畑区	6人	0.0%	33.3%	16.7%	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%

疾患に関する認知の高さも影響しているのかもしれないが、31.4%が「専門の医療機関につれていく」と適切な対応が回答されている。その一方、「飲酒しないように注意する」が17.5%、「わからない」が16.1%あり、医療機関や相談窓口の周知が、まだまだ必要と思われる。

【薬物編】

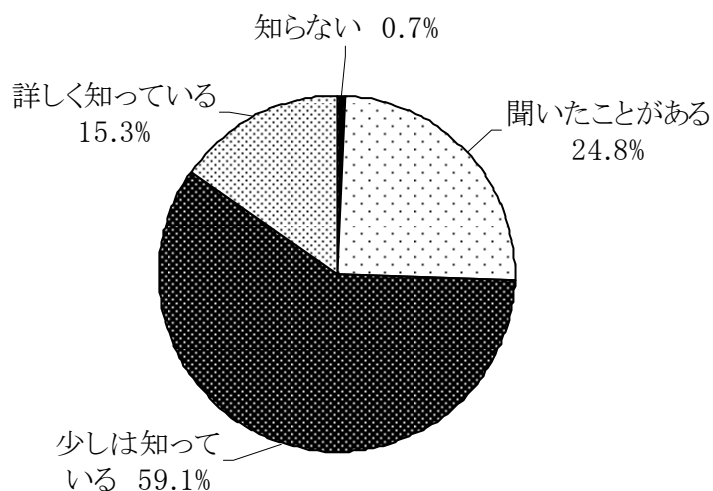
問9 あなたの身近でシンナー、大麻、覚せい剤などを実際に使った人を知っていますか。



		回答者数	知っている	知らない
全体		137人	13.1%	86.9%
性別	男性	45人	17.8%	82.2%
	女性	92人	10.9%	89.1%
年齢別	20歳代	17人	5.9%	94.1%
	30歳代	36人	19.4%	80.6%
	40歳代	27人	14.8%	85.2%
	50歳代	14人	21.4%	78.6%
	60歳代	25人	8.0%	92.0%
	70歳以上	18人	5.6%	94.4%
区別	門司区	23人	17.4%	82.6%
	小倉北区	27人	11.1%	88.9%
	小倉南区	28人	10.7%	89.3%
	若松区	10人	10.0%	90.0%
	八幡東区	12人	33.3%	66.7%
	八幡西区	31人	9.7%	90.3%
	戸畑区	6人	0.0%	100.0%

「知っている」との回答が13.1%は、対象行為が違法行為でもあることを考えると高い数字である。市民に身近なところに薬物問題が存在していることの証左であろう。

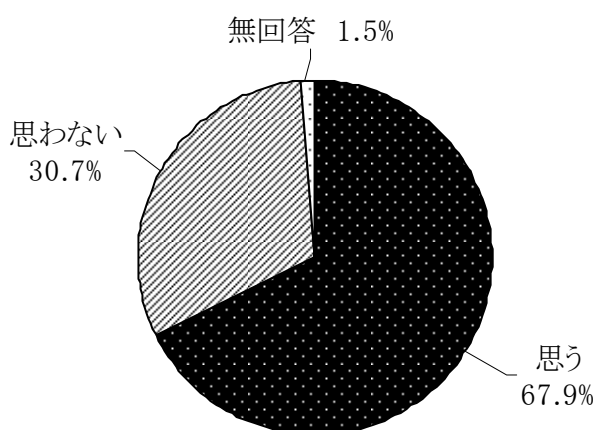
問10 薬物依存症という病気を知っていますか。1つだけ選んで下さい。



		回答者数	知らない	聞いたことがある	少しは知っている	詳しく知っている
全体		137人	0.7%	24.8%	59.1%	15.3%
性別	男性	45人	0.0%	26.7%	64.4%	8.9%
	女性	92人	1.1%	23.9%	56.5%	18.5%
年齢別	20歳代	17人	5.9%	11.8%	52.9%	29.4%
	30歳代	36人	0.0%	27.8%	52.8%	19.4%
	40歳代	27人	0.0%	22.2%	70.4%	7.4%
	50歳代	14人	0.0%	28.6%	57.1%	14.3%
	60歳代	25人	0.0%	24.0%	60.0%	16.0%
	70歳以上	18人	0.0%	33.3%	61.1%	5.6%
区別	門司区	23人	0.0%	26.1%	56.5%	17.4%
	小倉北区	27人	0.0%	29.6%	48.1%	22.2%
	小倉南区	28人	0.0%	28.6%	50.0%	21.4%
	若松区	10人	0.0%	20.0%	80.0%	0.0%
	八幡東区	12人	0.0%	8.3%	66.7%	25.0%
	八幡西区	31人	3.2%	29.0%	61.3%	6.5%
	戸畑区	6人	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

薬物依存症という言葉をなんらかの形で知っている人は99.2%であり、薬物依存症の認知度は高い。

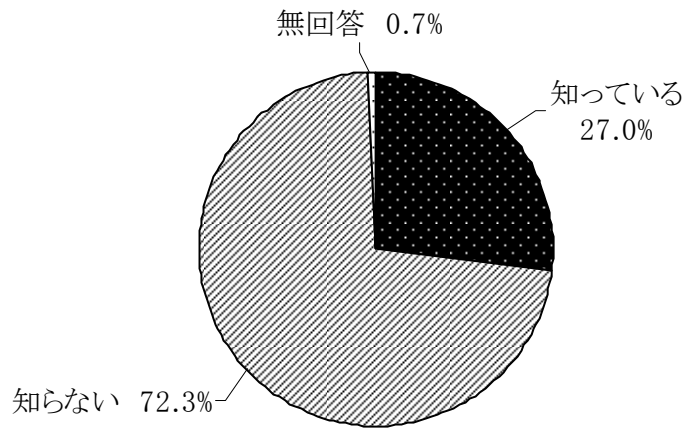
問11 薬物依存症は、回復可能な病気だと思いますか。



		回答者数	思う	思わない	無回答
全体		137人	67.9%	30.7%	1.5%
性別	男性	45人	73.3%	24.4%	2.2%
	女性	92人	65.2%	33.7%	1.1%
年齢別	20歳代	17人	52.9%	47.1%	0.0%
	30歳代	36人	52.8%	47.2%	0.0%
	40歳代	27人	70.4%	29.6%	0.0%
	50歳代	14人	85.7%	14.3%	0.0%
	60歳代	25人	84.0%	12.0%	4.0%
	70歳以上	18人	72.2%	22.2%	5.6%
区別	門司区	23人	47.8%	52.2%	0.0%
	小倉北区	27人	59.3%	37.0%	3.7%
	小倉南区	28人	60.7%	39.3%	0.0%
	若松区	10人	70.0%	20.0%	10.0%
	八幡東区	12人	83.3%	16.7%	0.0%
	八幡西区	31人	83.9%	16.1%	0.0%
	戸畑区	6人	100.0%	0.0%	0.0%

薬物依存症の認知度の高さに比べて、回復可能な病気とは「思わない」人の比率が3割を超えている。特に20～30代は、5割近くが「思わない」となっている。薬物の害だけでなく、不幸にして使用してしまった場合に対応する社会資源や回復可能性についての教育も必要と思われる。

問12 薬物依存症の相談窓口を知っていますか。

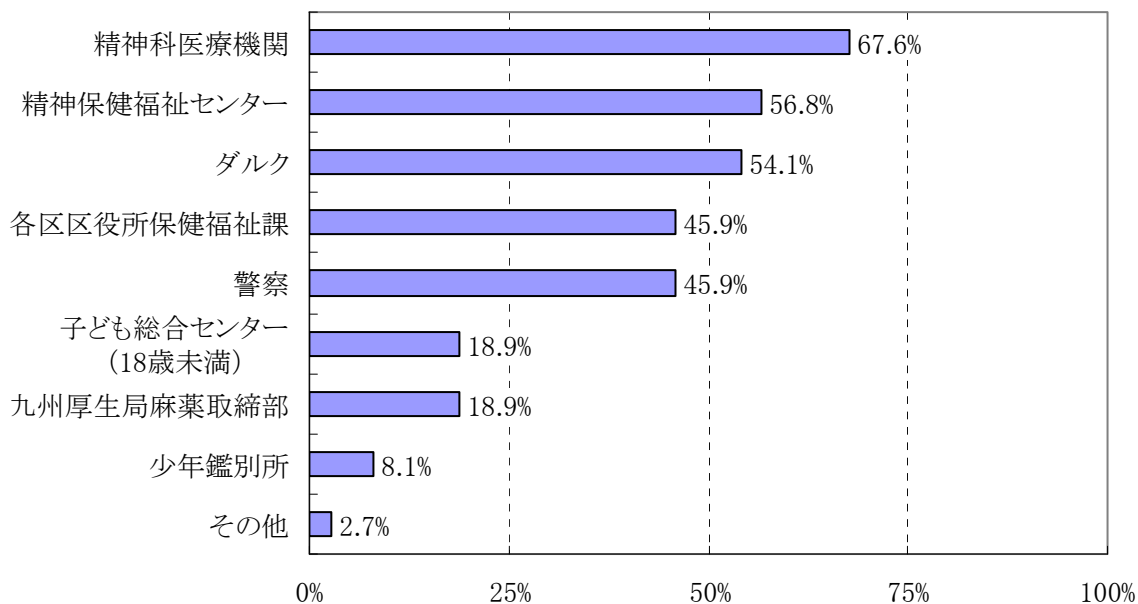


		回答者数	知っている	知らない	無回答
全体		137人	27.0%	72.3%	0.7%
性別	男性	45人	28.9%	71.1%	0.0%
	女性	92人	26.1%	72.8%	1.1%
年齢別	20歳代	17人	11.8%	88.2%	0.0%
	30歳代	36人	16.7%	83.3%	0.0%
	40歳代	27人	18.5%	81.5%	0.0%
	50歳代	14人	35.7%	64.3%	0.0%
	60歳代	25人	48.0%	48.0%	4.0%
	70歳以上	18人	38.9%	61.1%	0.0%
区別	門司区	23人	39.1%	60.9%	0.0%
	小倉北区	27人	25.9%	70.4%	3.7%
	小倉南区	28人	28.6%	71.4%	0.0%
	若松区	10人	50.0%	50.0%	0.0%
	八幡東区	12人	33.3%	66.7%	0.0%
	八幡西区	31人	6.5%	93.5%	0.0%
	戸畑区	6人	33.3%	66.7%	0.0%

薬物依存症の認知度は高いが、相談窓口については「知らない」が72.3%となっている。特に20～40代の若年層は8割以上が「知らない」と回答している。教育機関等で、薬物の害だけでなく相談窓口も伝達していくことが望まれる。

<問12で「1 知っている」と回答した方にお尋ねします。>

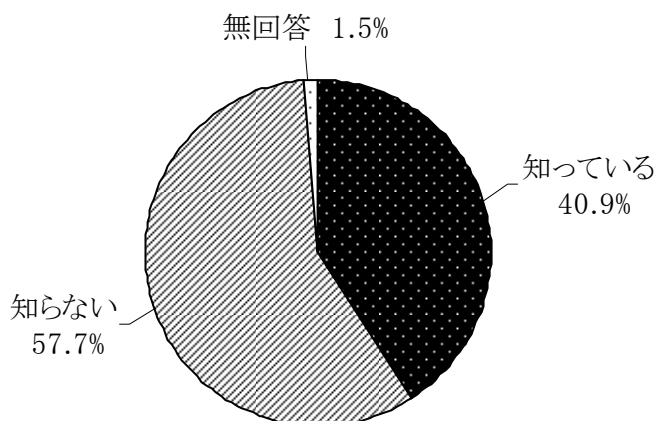
副問12-1 知っているものにすべてをつけてください。(複数回答可)



		回答者数	精神科医療機関	精神保健福祉センター	ダルク	各区区役所保健福祉課	警察	子ども総合センター (18歳未満)	九州厚生局麻薬取締部	少年鑑別所	その他
全体		37人	67.6%	56.8%	54.1%	45.9%	45.9%	18.9%	18.9%	8.1%	2.7%
性別	男性	13人	61.5%	46.2%	38.5%	46.2%	46.2%	7.7%	23.1%	7.7%	7.7%
	女性	24人	70.8%	62.5%	62.5%	45.8%	45.8%	25.0%	16.7%	8.3%	0.0%
年齢別	20歳代	2人	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	6人	50.0%	50.0%	66.7%	33.3%	66.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%
	40歳代	5人	60.0%	60.0%	60.0%	80.0%	60.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%
	50歳代	5人	80.0%	40.0%	80.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	12人	75.0%	58.3%	58.3%	41.7%	66.7%	16.7%	16.7%	8.3%	0.0%
	70歳以上	7人	71.4%	85.7%	14.3%	57.1%	0.0%	42.9%	42.9%	14.3%	14.3%
区別	門司区	9人	77.8%	77.8%	77.8%	55.6%	33.3%	22.2%	11.1%	0.0%	0.0%
	小倉北区	7人	42.9%	57.1%	28.6%	71.4%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%
	小倉南区	8人	75.0%	37.5%	50.0%	25.0%	50.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%
	若松区	5人	60.0%	40.0%	20.0%	40.0%	40.0%	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%
	八幡東区	4人	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	100.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	2人	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	戸畑区	2人	50.0%	100.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

精神科医療機関、精神保健福祉センター、ダルクは50～60%台と比較的認知されている。その一方、司法機関の相談先としての認知度は低い。子ども総合センターも同様である。わが国においては違法薬物の使用に関して、当事者との最初の接触が司法機関であることが多い。また薬害の子育てや青少年育成への影響を考えると、司法機関や福祉機関での周知も重要と思われる。

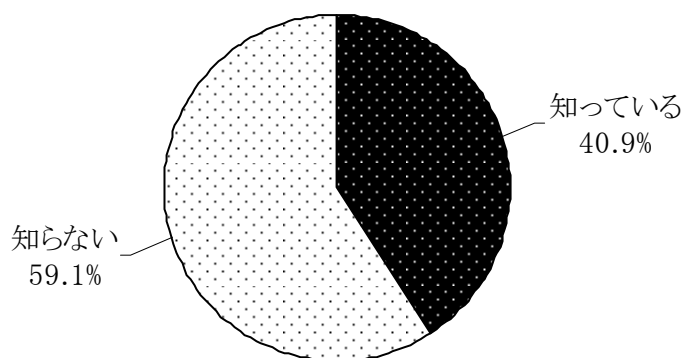
問13 薬物依存症の治療のためのプログラムのある病院があることを知っていますか。



		回答者数	知っている	知らない	無回答
全体		137人	40.9%	57.7%	1.5%
性別	男性	45人	37.8%	62.2%	0.0%
	女性	92人	42.4%	55.4%	2.2%
年齢別	20歳代	17人	47.1%	52.9%	0.0%
	30歳代	36人	55.6%	44.4%	0.0%
	40歳代	27人	33.3%	63.0%	3.7%
	50歳代	14人	28.6%	71.4%	0.0%
	60歳代	25人	40.0%	60.0%	0.0%
	70歳以上	18人	27.8%	66.7%	5.6%
区別	門司区	23人	47.8%	52.2%	0.0%
	小倉北区	27人	40.7%	55.6%	3.7%
	小倉南区	28人	32.1%	67.9%	0.0%
	若松区	10人	30.0%	70.0%	0.0%
	八幡東区	12人	66.7%	33.3%	0.0%
	八幡西区	31人	35.5%	61.3%	3.2%
	戸畑区	6人	50.0%	50.0%	0.0%

「知っている」が40.9%で、本市に薬物依存症の治療プログラムをもった病院がないことを考えると、少なくない数字と思われる。

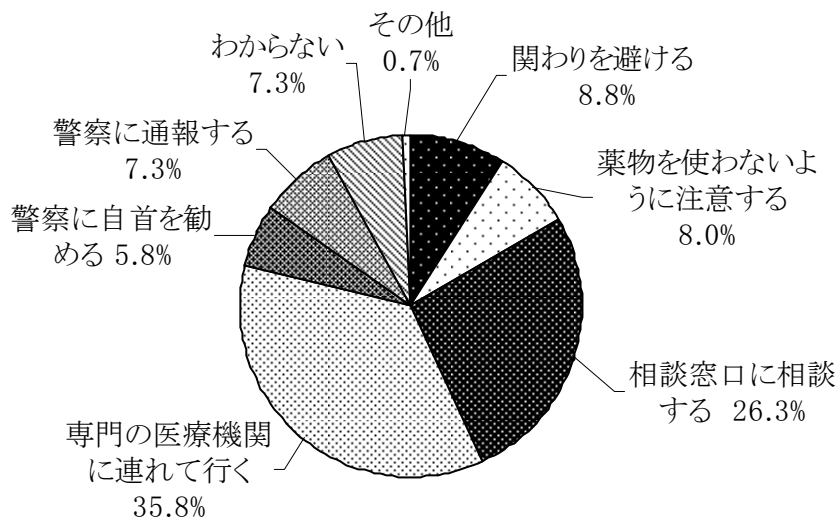
問14 薬物依存症からの回復をめざす施設や自助グループ(ダルク、NAなど)を知っていますか。



		回答者数	知っている	知らない
全体		137人	40.9%	59.1%
性別	男性	45人	40.0%	60.0%
	女性	92人	41.3%	58.7%
年齢別	20歳代	17人	35.3%	64.7%
	30歳代	36人	41.7%	58.3%
	40歳代	27人	40.7%	59.3%
	50歳代	14人	42.9%	57.1%
	60歳代	25人	44.0%	56.0%
	70歳以上	18人	38.9%	61.1%
区別	門司区	23人	60.9%	39.1%
	小倉北区	27人	40.7%	59.3%
	小倉南区	28人	32.1%	67.9%
	若松区	10人	20.0%	80.0%
	八幡東区	12人	58.3%	41.7%
	八幡西区	31人	35.5%	64.5%
	戸畑区	6人	33.3%	66.7%

市内でダルクやNAが活動していることを踏まえると、「知らない」が6割近い点は、周知の必要性を示唆している。薬物依存からの回復には自助グループの役割が大きく、薬物問題のリスクが高い20～40代の6割前後が「知らない」という現状は、薬物依存症の早期支援において大きな課題と思われる。

問15 もしあなたの家族や知人に薬物依存症の人がいたらどういふ対応をしますか。
1つだけ選んで下さい。

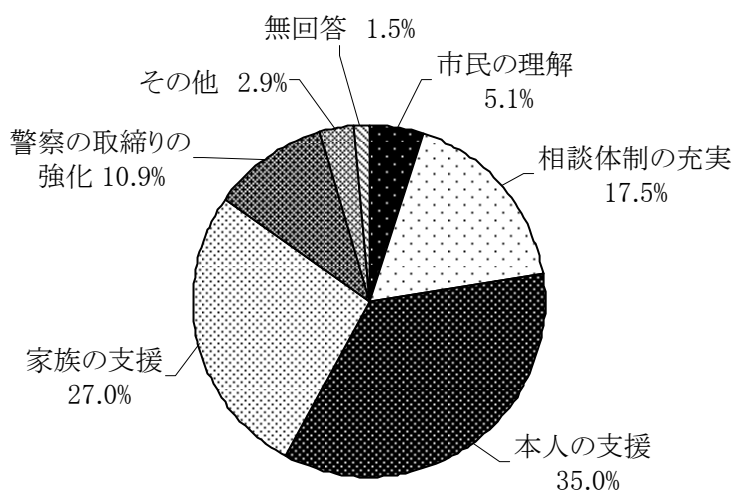


		回答者数	関わりを避ける	薬物を使わないように注意する	相談窓口に相談する	専門の医療機関に連れて行く	警察に自首を勧める	警察に通報する	わからない	その他
全体		137人	8.8%	8.0%	26.3%	35.8%	5.8%	7.3%	7.3%	0.7%
性別	男性	45人	13.3%	11.1%	28.9%	24.4%	6.7%	6.7%	8.9%	0.0%
	女性	92人	6.5%	6.5%	25.0%	41.3%	5.4%	7.6%	6.5%	1.1%
年齢別	20歳代	17人	11.8%	0.0%	29.4%	41.2%	0.0%	11.8%	5.9%	0.0%
	30歳代	36人	13.9%	11.1%	22.2%	36.1%	5.6%	8.3%	2.8%	0.0%
	40歳代	27人	3.7%	11.1%	22.2%	40.7%	3.7%	7.4%	7.4%	3.7%
	50歳代	14人	21.4%	7.1%	21.4%	28.6%	7.1%	0.0%	14.3%	0.0%
	60歳代	25人	4.0%	4.0%	36.0%	40.0%	4.0%	8.0%	4.0%	0.0%
	70歳以上	18人	0.0%	11.1%	27.8%	22.2%	16.7%	5.6%	16.7%	0.0%
区別	門司区	23人	8.7%	8.7%	21.7%	47.8%	13.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	27人	14.8%	3.7%	25.9%	37.0%	3.7%	7.4%	7.4%	0.0%
	小倉南区	28人	7.1%	7.1%	25.0%	32.1%	3.6%	7.1%	14.3%	3.6%
	若松区	10人	0.0%	20.0%	20.0%	20.0%	10.0%	20.0%	10.0%	0.0%
	八幡東区	12人	16.7%	8.3%	41.7%	25.0%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%
	八幡西区	31人	6.5%	9.7%	22.6%	35.5%	6.5%	9.7%	9.7%	0.0%
	戸畑区	6人	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

「専門の医療機関に連れて行く」と「相談窓口に相談する」とあわせて、62.1%が適切な対応を認識している。その一方、「わからない」「関わりを避ける」「薬物を使わないように注意する」で合計24.1%となる。回復支援についての啓発は課題である。

【共通】

問16 あなたは依存症の回復には何を充実させればよいと思いますか。1つだけ選んで下さい。



		回答者数	市民の理解	相談体制の充実	本人の支援	家族の支援	警察の取締りの強化	その他	無回答
全体		137人	5.1%	17.5%	35.0%	27.0%	10.9%	2.9%	1.5%
性別	男性	45人	8.9%	20.0%	26.7%	28.9%	11.1%	2.2%	2.2%
	女性	92人	3.3%	16.3%	39.1%	26.1%	10.9%	3.3%	1.1%
年齢別	20歳代	17人	0.0%	17.6%	35.3%	17.6%	29.4%	0.0%	0.0%
	30歳代	36人	5.6%	13.9%	33.3%	38.9%	5.6%	0.0%	2.8%
	40歳代	27人	3.7%	11.1%	37.0%	29.6%	11.1%	7.4%	0.0%
	50歳代	14人	0.0%	28.6%	42.9%	14.3%	7.1%	7.1%	0.0%
	60歳代	25人	12.0%	20.0%	40.0%	20.0%	4.0%	0.0%	4.0%
	70歳以上	18人	5.6%	22.2%	22.2%	27.8%	16.7%	5.6%	0.0%
区別	門司区	23人	8.7%	17.4%	26.1%	34.8%	8.7%	0.0%	4.3%
	小倉北区	27人	0.0%	25.9%	33.3%	22.2%	11.1%	7.4%	0.0%
	小倉南区	28人	7.1%	10.7%	42.9%	21.4%	14.3%	3.6%	0.0%
	若松区	10人	10.0%	30.0%	30.0%	20.0%	10.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	12人	0.0%	8.3%	41.7%	41.7%	8.3%	0.0%	0.0%
	八幡西区	31人	3.2%	16.1%	38.7%	25.8%	9.7%	3.2%	3.2%
	戸畑区	6人	16.7%	16.7%	16.7%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%

「相談体制の充実」「本人の支援」「家族の支援」で計79.5%の人が何らかの支援が必要と認識している。「市民の理解」5.1%もあわせれば、刑罰だけで解決する問題ではないと多くの市民が考えていることも示唆される。

問17 アルコール依存症や薬物依存症からの回復に関して、ご意見やご提案がありましたらご記入ください。

77件の記入があり、主なものは次のとおりです。

- ・ アルコールも薬物も断ち切るの一人じゃ絶対無理だと思うので、周りの人の理解と、協力が得られるような環境が整うといいと思います。
- ・ とても時間のかかる問題だと思います。問16に書かれてあるように、市民の理解、相談体制の充実、本人と家族の支援、警察の取締等、どれも続けていくことが解決への近道だと思います。
- ・ 依存症は本人の意志と環境に問題を抱えた場合、誰でもなる可能性はあると思う。依存症になった原因が排除され、本人の意志が強ければ治ると信じているが、本人も、周囲も努力は必要で、それを支援する体制がないとなかなか完治しないのではないかと。長期に渡る見守り体制で自助努力を促し、支援できる組織で迎え入れをして欲しい。
- ・ 根底（小中学校での教育）を徹底して行う。メディアで過度のアルコール摂取や薬物を美化するような表現をすることを禁止する条例や法律を定める。警察に即座に通報、保護できるようなシステムを作る。
- ・ 北九州は暴力団も多く、薬物も使用している人が多いように感じる。若者が興味本位で手軽に薬物に手を出してしまう現状をどうにかして欲しいと思う。学校や家庭が見て見ぬふりをするのではなく、すぐに相談できる窓口や家庭訪問を幅広くして欲しい。
- ・ 北九州市が「非常に憂慮すべき状況」であれば、もはや本人も問題（個人レベル）を請え、市内の構造的な問題（市民レベル＝家族・学校・職場・地域の環境）にまで目を向け、影響を及ぼす施策である必要があると思いました。そのため、本人や家族の支援だけでは不十分であり、「多くの人々をアルコールや薬物に恒常的に向かわせる構造は何か？」を市民に問いかけ続け、広く認識していただく必要があると思いました。その場合、興味のある方が参加する講演会だけでなく、広告やインターネットを通じた情報発信も重要となると感じました。
- ・ 困ったときに、どこへ相談に行けばよいのかが、広報不足な気がします。若い世代はネットで調べたりも出来ますが、いきなり病院というのは、なかなか敷居が高いと思われるのでは。
- ・ 自助グループが増え、依存症から脱却できるシステムができるといいですね。
- ・ もし可能ならば近くの公民館などのような近くで地域と一緒に考えて、専門の方を招いてプログラムを作ったり、具体的な取り組みが出来るようにしていくことにより、少しずつでもよくなる方向付けができるチャンスを作って行くようにするとよいのでは。そして原因の元はどこにあるのか、人間として元気よく生きていける環境づくり、人と人とのつながりを持っていくような市になるよう努力したいものです。それと、団塊の世代の方々が（時間がある方）北九州のリーダーとして活躍できるようなプログラム又は具体的に取り組んでいけるといいと思います。

- ・ アルコール依存症や薬物依存症は、背景に様々な個人の問題があると思う。一人一人原因は違う。依存症に至った個人の問題、社会的背景など究明し、改善しなければいけないと思う。
- ・ アルコール依存症にしる薬物依存症にしる、依存症にならないことがより重要ではないだろうか。もちろん、回復支援を充実させることも重要だが、依存症になる人を増やさないことを考えなければならないと思う。まず、小さいときから正しい知識を与えることが必要だろう。小・中学校の授業に取り入れるべきだろう。
- ・ きちんと回復しました、もう大丈夫です・・・の先も1年～2年の見守り期間があると良いと思う。
- ・ 本人はもとより、家族、周囲にも、他からの偏見に至っているのが現状と考えられます。幸い身近に関係するものがないので、今回のアンケートは対策等で関心が深まりました。啓発講演会、学校の家庭学級の講演会等、市民の理解が得られるイベント等をより多くあることを願います。

IV 全体考察

アンケート結果について、まずアルコール依存症から考察したい。

アルコール依存症については、「少しは知っている」「詳しく知っている」を合わせると9割以上であり、アルコール依存症の存在自体は多くの市民に認知されていることが示唆された。またアルコール依存症が回復可能な病気であるという点についても8割以上の方が認識しており、アルコール依存症に関する本市市民の認知度の高さがうかがえた。

その一方、適正飲酒について、「知っているし実行している」が8.8%、またアルコール依存症の相談窓口について、「知っている」が26.3%と低率であった。

さらに、アルコール依存症の治療のためのプログラムがある病院については「知っている」が53.3%、アルコール依存症からの回復を目指す自助グループについては「知っている」が56.2%であり半数近くの方が回復支援で大きな役割を果たす医療機関や自助グループを知らなかった。

そして、身近な人にアルコール依存症の人がいた場合の対応については、「相談窓口相談する」と「専門の医療機関に連れて行く」を合わせて54%であった。

これらの点を総合すると、アルコール依存症という病気の存在は、ほとんどの市民が認識しているものの、相談機関の活用など、アルコール依存症に対する具体的な対処を認識している方は半数程度にとどまることが示唆された。特に20～40代の若年者に、相談窓口について「知らない」が8割を超えており、他の項目においても年齢が低くなるほど「知らない」が多い傾向がある。若年層のアルコール依存症への認識の弱さがうかがえる。

次に、薬物依存症の部分を考察したい。

「身近でシンナー、大麻、覚せい剤など実際に使った人を知っていますか」という設問で13.1%の方が「知っている」と回答したが、これは高い比率で、本市の薬物問題の裾野の広さが示唆される。薬物依存症という病気については、「少しは知っている」「詳しく知っている」を合わせると7割以上となり、アルコールに比べると少ないが、問題の存在は多くの方が認識していることがうかがえる。また薬物依存症が回復可能であるという点についても、7割近い方が「思う」と回答しており、薬物依存症に関して一定の理解があることがうかがえた。その一方、薬物依存症の相談窓口については「知っている」が27%、また薬物依存の治療プログラムがある病院については「知っている」が40.9%、回復支援施設や自助グループについても「知っている」が40.9%といずれも半数以下であった。

家族や知人に薬物依存症の人がいた場合の対応については、「相談窓口相談する」「専門の医療機関に連れて行く」を合わせて、62.1%となり、アルコール依存症に比べると、適切な対応の比率が高かった。また、相談窓口について20代～40代の若年層において「知らない」の回答の比率が高い傾向があった。特に20代は88.2%が「知らない」と回答した。

全体を俯瞰してみると、アルコールと薬物とで少し差はあるが、依存症という問題の存在自体は知っている人が多い。しかし、相談窓口など具体的な依存症の対応については知らない人が多い。特に20代など若年層において相談窓口など依存症の具体的な対応について知らない比率が高い、という点が示唆された。

学校教育等における現在までの教育や啓発の活動の成果もあり、アルコールや薬物の害を伝えることによる依存症の認知度の向上は見られる。今後は、不幸にして自分や身近な人が依存症になった場合の理解と対応についても伝えていくことが必要であろう。

依存症に関する早期の介入・支援を実現していくためにも、相談窓口や医療機関、自助グループなど社会資源の存在や、依存症の疾患理解について、より多くの市民に伝わるよう関係機関と協力した広報啓発が必要とされている。

【市政モニターに関すること】
市民文化スポーツ局市民部広聴課（TEL：582 - 2525）
【アンケートに関すること】
保健福祉局障害福祉部精神保健福祉センター
（TEL：522 - 8729）